飢餓対策ニュース　第 298 号　発行日 2015 年 4 月 20 日（毎月 20 日発行）定価 15 円

日本国際飢餓対策機構（Japan International Food for the Hungry：略して JIFH）は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体（NGO）です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合（Food for the Hungry International Federation）の一員として、20ヶ国 60の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころとからだの飢餓」に応える働きをしています。

JIFH新愛知事務所が開所

NGO・NPOの集まる新拠点 グレイス・センター内に移転

愛知事務所の連絡先は下記に。事務所担当は浅野陽子と星野絢子です。食料デー実行委員会などもこの場所で行われます。ぜひ一度ご来所下さい。

今年3月末に名古屋市中区に移転した日本国際飢餓対策機構・愛知事務所の開所式が 4 月 17 日㈮、事務所がある千代田ビル3Ｆグレイス・センターにおいて行われました。当日は、地元の東海地区を中心に世界食料デー名古屋大会実行委員会をはじめ協力諸団体の代表者ら 60 名を越える方々が集まり、新事務所開設の門出を祝ってくださいました。式は、グレイス・センター所長石橋憲氏の進行で同センター内に事務所を開く当機構、インターナショナルVIPクラブ名古屋、CBMC、あいちゴスペルネット、ひまわりの会、グレイス・ハウス、グレイス・コーポレーションの合同形式で行われ、各団体の挨拶と活動紹介も行われました。

前列右から石橋氏、岩橋理事長

当機構岩橋理事長は「JIFH は東海地区にある支援教会や諸団体によってここまで支えられてきました。特に東日本大震災での緊急支援活動はみなさんの助けが大きな力となりました。これから私たちはイエス・キリストの生き方にならい、社会の暗闇にいる人々を照らす光となり、支援者の皆さんと共に世界で飢餓に苦しむ人々に仕えるしもべとなっていきたい。そのためにこのセンターが用いられていくことを期待します」と新たな決意を語りました。

“ありがとう”をプレゼント

◎やさしい肌ざわりの　シルク100%ストール
　希望小売価格6,300円　エチオピア製
◎小旅行にも役立つ　ノクシカタポーチ
　希望小売価格2,000円　バングラデシュ製
　合計税込8,300円を日本全国送料無料税込
　4,500円でお届け
　●ポーチの色、デザインはおまかせ。
　●ストールは８色から指定可。
　　２点ともフェアトレード製品

▶写真　ストール８色
　上段：濃紺、薄茶、薄緑
　中段：ピンク、黄色
　下段：橙、紫、水色

　数量に限りが有りますのでお早めに！
「母の日」プレゼント用ラッピングバッグを希望される場合はお知らせください。

【お問合せ】　株式会社キングダムビジネス
〒 540-0026 大阪市中央区内本町 1-4-12NPO ビル 402
TEL：06-6755-4877　FAX：06-6755-4888

ハンガーゼロサポーターを大募集中!!

現在…3912口

今すぐ▶▶▶各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- □ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
  毎月（　　）口　（1口 1,000 円）
- □ チャイルド・サポーター（世界里親会）になりたいので説明書（申込書）を送ってください。
- □ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
  毎月（　　）口　（1口 1,000 円）
- □ JIFHサポーターとして協力します。
  毎月（　　）口　（1口 500 円）
- □ 今回に限り（　　）円協力します。
- □ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- □ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ
氏名：　　男・女

〒
フリガナ
住所：

（電話）

▼申込日：　　年　月　日▼NL 298 号

FAX・072-920-2155

●書き損じ年賀はがき（私製以外）や未使用切手を大阪事務所にお送りくださいませんか。

■発行者　岩橋竜介
■発行所　一般財団法人　日本国際飢餓対策機構
Webサイトアドレス　http://www.jifh.org/
eメールアドレス　general@jifh.org
フェイスブック　https://www.facebook.com/hungerzero
ハンガーゼロで検索！
■募金方法　※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウエブサイトで
●郵便振替　00170-9-68590／日本国際飢餓対策機構
●他の金融機関からの自動振替●クレジット、デジタルコンビニ
今すぐ募金ができます！　ゆうちょ銀行　VISA　FamilyMart　LAWSON　かざして募金
「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル（株）経由となります。詳しくはウエブサイトをご覧ください。

大阪　〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1　TEL (072)920-2225　FAX (072)920-2155
東京　〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCC ビル 517 号室　TEL (03)3518-0781　FAX (03)3518-0782
東北　〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6エマオ2階 E　TEL (022)217-4611　FAX (022)217-6651
愛知［新住所］　〒460-0012 名古屋市中区千代田 2-19-16 千代田ビル3F　TEL (052)265-7101　FAX (052)265-7132
広島　〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLC ブックス 2F　TEL (082)546-9036　FAX (082)546-9037
沖縄　〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米 202号　TEL (098)943-9215　FAX (098)943-9216
USA　Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa 8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605　TEL(510)568-4939　FAX(510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所（八尾市）、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が発送作業のご協力をして下さっています。

1分間に17人（内12 人が子ども）
1日に2 万5,000 人
1年間では約1,000 万人が
飢えのために生命を失っています。

一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

2015　5　No.298

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる

2頁に夏のワークキャンプ特集
写真2013年ボリビアキャンプ

土地と人を生かす水

日本国際飢餓対策機構　理事　倉沢正則（東京基督教大学教授）

最近、米国カリフォルニア州は水不足に悲鳴をあげて、ブラウン州知事が住民に25%の節水を義務付けたことが報じられていました。歴史的な干ばつに見舞われて貯水池等の水がかなり減っている映像が送られてきています。かつて荒野でサボテン科の植物が多かった地は、その後の灌漑などによって豊かな緑に包まれた景観となりました。また、軒先に広がる芝生の庭は、定期的なスプリンクラーによる水の供給によって美しく保たれていたのです。

しかし、昨今の水不足はこれまでの庭の景観を変えつつあるようです。節水ということもあってある程度の水を必要とする芝生ではなく、かつて少ない水でも生育していたサボテン等の砂漠植物に植え替える動きが起こっています。

3月下旬にイスラエルを訪れる機会を得ました。今回は聖書の世界のイスラエルであった「ダンからベエルシェバ」を巡りました。エルサレムの東側、ヨルダン川から死海、そしてその南に広がるユダやネゲブの荒野と、北のヘルモン山からの湧き水によるガリラヤ湖付近の緑豊かで肥沃な地という好対照の二つの地域を目の当たりにしました。水のあるなしがどのような結果を生むのか一目瞭然でした。さらに驚いたことは、その国土の60%が乾燥地であるイスラエルは現在、食料自給率が93%以上である農業立国ということでした。イスラエルの農業共同体キブツによって開発された「点滴灌漑」によるところが大きいと言われています。少ない水でも豊かな農作物を得る技術は節水に喘ぐ人々には朗報となるでしょう。そこで教えられるのは、「水」はそれほどに大切なものだということです。

土地の干ばつによる乾燥化、森林伐採や過放牧による砂漠化、さらには紛争や戦争による荒廃化は、多くの地域で「飢餓」を生む結果となっています。緑が失われ不毛となってゆく土地と飢餓に喘ぐ人々が重なります。水不足は、緑と豊かな農作物の収穫という好循環を断ち、その土地と人々を荒廃と飢餓に追いやることを覚えます。土地はそこに住む人々と深く関係しています。土地には緑豊かとする生ける水が必要であり、人のからだとこころにはいのちを潤す「生かす水」が必要であると昨今、とみに思わされています。

「しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことがありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」
（キリストのことば）

ウガンダのカサーレの人たちは今、期待に胸を膨らませています。小学校の新しい教室の建設が始まったのです！「すべての子どもたちに教室を」と願ってきた村の人たちは一丸となって、日干しレンガ2,500個を自分たちで作り、トラック10杯分の砂を用意してきました。また、国の建設基準に則した工事が行われるように、教室建設委員を選出して工事の進捗を見守っています。

工事は、4期に分かれて実施。第1期：基礎工事、第2期：壁、第3期：屋根、第4期：しっくい塗り、床張り、窓、ドア、照明などの設置。5月初旬には第3期に入る予定です。

12･1月のカサーレレンガ募金で358口（1,155,000円）の応援がありました。感謝致します。

ウガンダ・カサーレ小学校教育支援

もうすぐみんなの教室ができるよ

工事は3月30日に始まり、基礎の設置は4月14日に完了、残りの３期はそれぞれ２週間。順調にいけば、6月初旬に工事が完了する予定です。

教室完成にはみんな大きな期待を寄せています。現在木の下で勉強している４年生担当のバカリ先生は「子どもたちが強い日差しや、雨、嵐、様々な騒音にさよならする日を心待ちにしています。教室に移れば、子どもたちは集中して授業を受けることができますし、先生も教え甲斐があるようになります。何よりも欠席者が確実に減るでしょう」と語りました。

「子どもたちの成績も良くなり、途中で学校をやめてしまう子どもはいなくなるでしょう」と校長先生が続けました。生徒の増加を見越して、地区の教育委員はすでに教師２名を増やす許可を与えてくれました。

この学校は特別なもの

子どもたち、保護者、教師、村のリーダー、みんなが口を揃えて、新しい教室建設は神様の恵みの業、私たちへの愛の表れと喜んでいます。村の住民イタカリ・キーファさん（67）は「私たちの学校は、特別なものになりました。他の村の人たちが本当に感心しています」と言い、カサーレ小学校生徒の保護者の1人ンゴビ・ダビさんは「工事はまだ半ばですが、保護者、リーダー、FHナムトゥンバの職員、みんなで力を合せて取り組んできたので、三者の関係によい変化が現れて来ています。これからもカサーレ村がより良くなるために、それぞれが力を出し合おうという思いが生まれています」と語りました。

予定通りに建設が進むためには天候に恵まれ、工事に携わる人たちや技術者の安全や健康が守られることが必須です。また、これまで屋外に置かれてボロボロになってしまった机や椅子の買い替えや、トイレ設置の課題もあります。

「工事が完了し、教室がFHの手に渡される日を心待ちにしています。その時は、みんなで力を合わせることができたこと、そしてたくさんの祝福を与えてくださったことを、みんなで神様に感謝します」と村人は語っています。

工事の様子を見守る地域住民。カサーレ村がより良くなると期待が寄せられています

雨ざらしで傷んだ机と椅子

カサーレ募金へのご協力を感謝致します。年末年始のレンガ募金を加えて現在420万円。目標500万円までぜひ応援ください

今年の夏は“海外キャンプ”で学ぼう!!

アジアと南米でキャンプを実施します

今回は毎夏国内で行われていたファシリテートレーニングをフィリピンで行います。JIFHの協力団体であるハンズ・オブ・ラブ・フィリピンの協力を得て現地スタッフと共に活動地を視察、またそこでの実地の研修を予定しています。現場でこそ見えてくる課題や希望があります。将来途上国の開発現場で働きたい方に参加をおすすめします。

もう一つは、ワークキャンプを南米ボリビアで行います。開発途上国における極度の貧困が生み出す様々な問題を学ぶとともに、当機構の活動現場でのボランティア・ワークを行います。また現地で実施されているコミュニティ自立開発の現場を訪問・滞在して現地の人々や子どもたちとの交流を計画しています。

① フィリピン・ファシリテートレーニングキャンプ

日程：7月29日㈬～8月7日㈮
費用：16万8千円（予定）　**募集人数**：10名
参加条件：JIFHの会員であり高校生以上で飢餓や貧困の解決、コミュニティ開発や将来途上国での働きに関心のある者。

【目　的】

フィリピンにおける貧困問題を現地に滞在することで包括的に学ぶ。都市部と田舎部での貧困問題の相違点とフィリピンの持つ可能性を学ぶ。

【トレーニング内容】　都市部の貧困の現状を視察

マニラ・パサイ市、パラニャーケ市の貧困地域を訪問。そこを拠点に貧困家庭の子どもの支援をしているキリスト教会を訪ねます。また公営墓地で生活する極貧の人々の状況から都市部の貧困問題を学びます。

サンアンドレアス村シド地区にあるミンドロ島原住民、マンヤンアラガン人のコミュニティに滞在し、マンヤンの人々の生活、またそこで行われているコミュニティ自立開発のプロセスを、村の人々との交流及び現地スタッフが主導するワークショップを通して学びます。

ミンドロ島プエルトガレラにある、虐待や暴力、性的搾取の被害を受けた児童の保護とリハビリを行っているStairway Fundation Incの施設に宿泊し、貧困がもたらす子どもたちへの影響の現実を学びます。

活動の合間に、講義、ワークショップを行い、開発手法の基本的な学習を実施する予定です。

学校で子ども達と交流（ボリビア）

② ボリビア・ワークキャンプ

日程：8月14日㈮～27日㈭
費用：33万9千円（予定）**募集**：10名 ※最少催行6名
参加条件：JIFHの会員であり高校生以上で、共同生活ができ途上国の現状に興味関心のある者。

【目　的】

リオカイネ地区でのワークとそこで行われている子どもの教育支援（CDP）の現場を訪問し、現地の人々と子どもたちとの交流を行う。

【活動内容】

リオカイネ地区の人々の健康改善のためにススが出にくいキッチンの設置プロジェクトを行う予定（内容は変更の可能性あり）。ワークの内容は特別な技能を必要としない、誰にでもできる内容に工夫されています。

また、現地の学校を訪問し、日本の皆さんの教育支援を受けている子どもたちとの交流と、支援によって子どもたちがどのように変化し、また家族が変化したか家庭訪問を通して学びます。

村の訪問（フィリピン・ミンドロ島）

問合せ・参加申込みは…
東京事務所 TEL：03(3518)0781へ
※①②とも東京・大阪発着となります。

キャンプ参加にあたり当機構の会員登録が必要となります。またオリエンテーション（説明会）にも参加していただきます

世界里親会チャイルドサポーター大募集

支援を待つ子どもたち639人

世界里親会は、フィリピン、バングラデシュ、カンボジア、ウガンダ、ボリビア各国の飢餓対策機構（FH）と協力して、貧しくて学校に行けない子どもの教育支援を行っています。

その国の将来を担う子どもたちが学校教育を受け、希望を抱いて歩むことができるように学用品や制服、定期健診の支援に加えて校舎増改築など幅広くサポートしています。また貧困家庭が安定した収入を得ることができるよう、地域の人々に識字教育や職業訓練を行い、貯蓄グループを作って低金利ローンの貸し出しや共同事業の運営支援を行っています。グループで衛生や栄養の学びもし、実生活で実践するよう励ましています。

世界里親会の目的

私たちが支援の手を差し伸べるのは、経済的に貧しいというだけで社会的抑圧を受けてきた人々です。「すべての人は目的をもってつくられており、等しい価値がある」という聖書の教えから、大人も子どもも、自らの潜在能力を発見して何もできないという心の飢餓から脱出できるように励ましています。この支援は自立できるまで期限を定めて（7-10年）行っています。ぜひ里親（チャイルドサポーター）になって子どもたちをご支援ください！

支援7ヵ国の活動と待機人数

ウガンダ 149人

活動地域のナムトゥンバは、首都カンパラから東へ約150ｋｍ、車で４時間です。人々の収入源は農業ですが、現金収入が不十分で子どもたちも学校より農作業の手伝いを優先せざるを得ません。教室や医療設備も不足、FHウガンダは地域の要望を受けて4教室の建設にJIFHとともに協力しています。（2頁参照）保護者たちは貯蓄グループに集い家計管理について学んでいます。ここでは149人の子どもがサポーターを待っています。

バングラデシュ 139人

支援地マチュパラ地区は首都ダッカから西へ約200ｋｍ、車で5時間の所です。人々の多くは土地を持たない小作農民や自転車タクシーの運転手を仕事としていますが、家族の食費を賄うことはできず、子どもが学校へ通うことにも理解がありません。FHバングラデシュは貯蓄グループを利用して、保護者への識字・衛生・栄養教育、職業訓練の機会を提供しています。里子として登録されている300人のうち、139人の子どもがサポーターとの出会いを待っています。

カンボジア 153人

アンコールワットはシェムリアップ州にあり、観光で賑わう地域ですが、北部のスバイルー地区は農村部で開発が遅れ、人々の貧困生活が続いています。大半は農業従事者で、米やイモを栽培していますが、収穫は天候の影響を大きく受け、2～3ヵ月間食べ物がないことも珍しくありません。井戸や池の水を煮沸する習慣がないので寄生虫や下痢などの病気にかかりやすく、衛生改善への取り組みも必須です。保護者に教育の必要性を理解してもらうことも必須です。里子として登録されている250人のうち、153人がサポーターとの出会いを待っています。

支援を待つ子どもたちです。支援ご希望の国・男女の別をお申し出下さい。里子との手紙のやり取りは日本語で大丈夫です。
（当会で翻訳します）

チャイルドサポーターになって応援してください

里子一人に月4,000円

サポーターさんには、成長記録やクリスマスカードをお届けします。手紙や写真の交流もできます。

ボリビア 150人

ボリビアは栄養不足人口の割合が南米でも飛びぬけて高い国です。支援地区アサワニは、標高3,200mを超える高地にあり、イモや豆の栽培、ヤギ・ロバ・ニワトリなどの牧畜を主な生業としています。もう一つのリオカイネ地区は、標高1,800mの高地でイモやナッツ・レモンなどの栽培を主な生業としています。いずれの地域も生産量が少くて貧困状態が続き、都市に移住する家族も少なくありません。しかし、教育への関心は強く150人の子どもがサポーターとの出会いを待っています。

フィリピン 48人

スラ地区、マトノグ地区

ルソン島の南東に位置しマニラから空路と陸路で約４時間のスラ地区の人々は、漁業を生業としていますが、天候に左右されやすく、年の半分は漁に出られないことも珍しくありません。又何をするにも船で隣島に移動するため出費が多く、漁業を補う収入源が必要です。一方マトノグ地区の人々の多くは、小作農民で収穫の半分以上は地主の物となるため、父母は都市部へ出稼ぎに行き、祖父母が子どもたちの世話をするケースも少なくありません。FHフィリピンでは48人の子どものサポーターを募集しています。

フィリピン

ミンダナオ島カパタガン地域

ダバオ市内から車で3時間、アポ山中腹にこの地域はあります。古くからバゴボ民族が暮らしていましたが、企業の土地買い上げにより所有地を失ったことから貧困生活が始まりました。FH 韓国から派遣された宣教師が、地元教会や保護者と共に文具・制服や給食、健康診断・衛生指導などを行っています。人々の必要に応えるとともに、自分たちの問題を解決する力も養うよう励ましています。

ルワンダ

ピース平和学校

ルワンダでは大量虐殺から20年を超えた今でも人々の心には深い傷が残り、国造りに大きな影を落としています。また隣国から難民として流入してきた人々も厳しい生活を送っています。このような子どもたちに無償で教育を行っている同校を世界里親会は支援しています。

ケニヤ

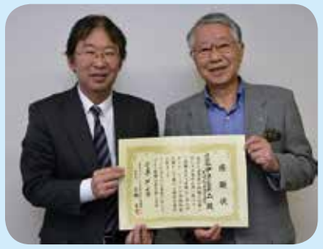
シープケア学校

首都ナイロビから約15㎞のスラム街にあり、保護者が定職に就けないので子どもたちは、おなかを満たすこと、ましてや学校に行くことが困難です。同校のルーク校長は、貧しくても周囲の助けを得て教育を受けることができた自身の体験から、私財を投げ打ってこの学校を始めました。現在約500人の子どもたちに教育とともに、一日の唯一の食事となるであろう給食も提供、職業訓練の機会も人々に提供しています。同校の活動を世界里親会は支援しています。

申込み方法 問い合わせ

チャイルドサポーターの申し込みは、今すぐホームページから。
クレジットカードご利用できます。
または大阪事務所☎072(920)2225までお電話ください。

中京医薬品（愛知県半田市）では、まだ企業のＣＳＲ（社会的責任）という言葉が広く浸透していなかった1994年当時に、独自の国際貢献活動「きずなASSIST（アシスト）」をスタート。以来「世界の子どもたちに健康と教育を」をテーマに様々な団体や学校、行政などと持続可能な働きへの支援を続けておられます。当機構に対しては東日本大震災での置き薬プロジェクト、ウガンダでの医療施設への支援などがあり、今年度は、ケニア・シープケア学校給食支援が行われます。きずなASSISTの取り組みについて山田正行社長にお話を伺いました。



山田社長㊨に清家常務理事から感謝状を贈呈しました

火は消さずに灯し続けることです

㈱中京医薬品　社長　山田正行氏

Q　きずなASSISTのテーマは「世界の子どもたちに健康と教育を」ですが、どのような願いが込められているのですか

社会貢献といっても様々な分野があります。当社の事業規模を考えますと、継続という視点から分野は絞ったほうがよいと考えました。子どもに焦点を当てたのは、やはり「子どもは世界の、地球の宝である」ということです。子どもたちの笑顔は実にパワフルで大人やそこで暮らす人々にもよい影響を与えてくれます。応援をする私たちにとってもその笑顔は力ともなりますね。

Q　きずなASSISTは22年目ですが景気後退でも続けたのは？

確かに財政的には厳しいときもありました。しかしローソクの灯ではないですが、こういう活動は一旦火を消してしまうとだめなんですね。たとえ小さな灯でもそれを消すことなく継続していけば現地の支えになることはあると思います。また一つの企業が小さな灯であったとしても継続していくなら、「うちでも社会貢献をしてみようか」という波及効果にもつながるのではと期待しています。そうした（継続支援の）支流がいくつも生まれてくればやがて大河になるのではと思います。

この歳になると、「してもらう喜びよりも、尽くす喜び」への思いが強くなりました。支援させていただける喜びというのか、そういう思いが年々強くなってきました。

Q　きずなASSISTのもつ意味は

企業活動で得た収益は法人税を国に納めるわけで、国はそれを公共事業や社会福祉などで国民生活に役立ていくわけです。ですから企業にとっての最たる社会貢献は事業で利益を上げることです。その過程で私どもが納める法人税を「このために使ってください」ということはできません。そういう観点から言うと、きずなASSISTは、ピンポイントでお金の使い方に私たちの思いを込めることができます。

Q　現地にも足を運ぶことによる効果は

これまでいろいろな国々に行きました。一番学んでくるのは社員です。自分たちがいかに恵まれているのかを実感します。人間にとって大切なことは「生き抜く力を得る」ことだと思います。それはテレビや本だけでは養われません。実際に足を運んで、そこで命がけで懸命に生きている人たちの姿にふれることは何よりの体験ですね。海外に行ってきた社員のレポートを毎回欠かさず読んでいますけれど、みなそこで考えて、学んでくるのです。1週間やそこらのボランティアで身につくのではなく、身につくのは戻ってきてから企業活動や自身の働き方、お客様や社員同士の人間関係の中で、海外訪問の経験が生かされてくるのだと考えています。

Q　ケニアの子どもたちにぜひ応援メッセージをお願いします

あなたたちが世界の宝物です。夢と希望と勇気をもって、その力を知って欲しい。それがみなさんの社会に光明を与えると信じてください。給食は、子どもたちにとって一日の唯一の食事になるケースも多いとのことですが、ぜひ頑張って欲しいと願っています。

今年度支援するシープケア学校の子どもたち

「あの日」を心に刻み災害対策

油山シャロームチャペル牧師　横田法路（よこたほうろ）氏
（日本国際飢餓対策機構・理事）

2011年3月11日の東日本大震災から４年が過ぎましたが、復興への道のりはまだまだ長いと言われます。だからこそ、私たちは、「あの日」の出来事が風化していくことに抗いつつ生きていかなくてはなりません。「あの日」見たこと、聞いたこと、感じたこと、考えたことを私たちの記憶に刻むというだけでなく、私たちの生き方の中に刻みつつ生きることが必要ではないでしょうか。

その一つの取り組みが、次の大震災への備えです。巨大地震が日本にいつ起きてもおかしくないと聞きますが、そのような災害時における助け合いのネットワークを、自分たちが住んでいる身近な地域の中で築いていくことです。東日本大震災発生の10日後、私は津波の甚大な被害を受けた南三陸町に入りました。そこで目にしたのは、緊急支援物資の配送に、地域による偏り（格差）が生まれているという厳しい現実でした。どうしても人が多く集まっている所に支援物資が優先的かつ集中的に届けられ、辺境地に生活している方々にまで、支援物資がなかなか行き渡らず、生存ギリギリのラインで生活を余儀なくされていた人たちを目の当たりにしました。

災害備蓄倉庫の前で
右から2人目に横田氏

非常時においても、行政の働きは重要ですが、そこには明らかな限界があります。自分が住んでいる地域コミュニティーの中に支援の拠点をもち、さらにそれが広いネットワークの一部として連なっていることが大切です。緊急時の支援のリソースが有効に活用されていく仕組みを予め作っておくことが肝要なのです。

私たち油山シャローム教会は、このような緊急時における地域支援の拠点として奉仕することを願い、地元の東油山地区の方々との相談を始めました。そして、教会付属の建物を災害備蓄倉庫として活用することや、国際飢餓対策機構とパートナーシップを結び、近隣地域社会への緊急支援物資ならびに支援ボランティア派遣の窓口となるという災害時地域支援計画を策定しています。

「災害」はもちろん悲しい現実ではありますが、同時に、人と人がつながる「機会」、地域と教会がつながる「機会」へと変えることもできます。そのような小さな取り組みの積み重ねこそが、「あの日」を刻みつつ生きる一つの生き方なのではないでしょうか。

「一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかしもし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる」
（聖書・ヨハネ福音書12章24節）

バヌアツ・サイクロン被災者緊急支援にご協力ください！

強風で屋根が壊れた家

当機構は、大型サイクロンで被害を受けたバヌアツ共和国に緊急支援を始めています。支援活動は、海外パートナーの国際飢餓対策機構ニュージーランドや地元の支援グループと協力しながら、支援の手がゆき届かない貧困世帯などを優先に配布を行います。配布物資は、パン・アキモトからパンの缶詰（約３千食）やカメヤマローソクから停電用ローソク（4500個）、中京医薬品から医薬品をそれぞれ提供いただきました。現地では、多くの方々が避難生活を続けています。ぜひ支援をお願いします。

支援は…郵便振替00170-9-68590「バヌアツ」と明記、又はウエブサイトから